

ステートメントを構成する「式。r式じゃないもの」の構成要素（変数、定数、リテラル値、キーワード（Ⅱ全・命令語句））

ExcelVBA「初級者」の僕が、ヘルプを読んでやれるところまで整理した、
ステートメントを構成する「式 or 式じゃないもの」の構成要素（変数、定数、リテラル値、キーワード（＝全ての・命令語句））
（※「プロシージャ」は、「ステートメント」が複数集まってできている、開始と終了の区切りが決定づけられたものです。なので下配のものたちは、そのまま、「プロシージャを構成する要素」＝「学習対象」にもなります。）

[illegible]

←全部、ヘルプを読むと、こんな感じのことが書いてあります。

自分は学者じゃないし、初心者の方の「目録・学習しやすい・目的」のために、そこを考えて、参考になるようにあえて意図(?)もしてあるの、で、100%正しいわけではないと思いますが、ただ、
プロの書籍の著者にしても、ここはちゃんと明確には整理・説明が「できない・無理」だと思います。
現状、彼らは、「ステートメントやオブジェクト式の意味」自体すら、まともに説明できていないので、20年も経ったのに、未だに業界内での統一見解も出されていません。(愚か

※「キーワード」とは？

「キーワード」とは・・・

- (a) 基本、VBEにての、F1キーの押下でヘルプページが出てくるモノ(=F1キー押下に反応するモノ)、
 (b) F1キーの押下に反応しなくても、ステータメントの中に実際に書く単語で、かつ、ヘルプにも載っているモノ、
 (c) (F1キー押下には反応しないけど)以上のキーワードと性格が同じ、自作の命令や設定値、データ型名、イベント名、など、
 …のこと、と捉えてよい(=キーワードに含めてよい)と思います。つまり「キーワード=変数やリテラル値以外」

ヘルプを読むと、「何が「キーワード」なのか?」や、「どこからどこまでがキーワードなのか?」が分かりにくいのですが、逆に、ヘルプやウォッチフィンドウやオブジェクトブラウザなどを読みやすくするためには、「**あるいは**」「**キーワードと**」は、VB6の中心にあり、ステートメント中に実際に「影響する」。「**命令単語**」「**あるいは**」「**既定値単語**」という意味合いですつ、すべての「**関数**」「**単語**」と考えていいと思います。
 ※また、「命令単語」とは、(何句かを助ける命令単語のこと)と何句かを助ける、処理できる「**ゲット**」と**set**の、**既定値命令単語**のこと、というイメージで覚えていただくと大丈夫だと思います。

つまり、VBAの場合は、世間一般常識的な、「キーワード=重要語句」という意味ではなくて、「**キーワード=VBAで使える、すべての命令単語や設定値単語**」という感じになります。特に「ヘルプ」の中では、**(そう明記はされていませんが、でも、そういうニュアンスで書かれていますし、実際、そう考えたほうが、「迷いが大幅に減り」、ヘルプが読みやすくなります。)**

なのでそこには、演算子、全ての関数(Excel関数、Office共通、API、その他、等々、すべて)、オブジェクト名、プロパティ、メソッド、ステートメント名(各種ステートメント用の単語)、各種組み込み定数、引数名、イベント名、などが含まれます。(ムリヤリにでもそう含めて考えていいです。)

なので、更に「常駐して、自作の関数、オブジェクト名、プロパティ、メソッド、プロシージャ(Onキーワードやドットで呼び出せるモノ)、定数、引数名、なども、「自作キーワード」として位置づけでもよいと思います。

何れ、クイズジャンルを仕分けるようにしても、「そのような考え方が間違っている」と思えるような問題は、上記のような考え方で通して問題ありません。

もちろん、クイズジャンルを仕分けるようにしても、「そのような考え方が大抵は「ケル！」とも思いますが、もし間違えたら、それと通して問題ありません。もちろん、「それは違う」と明確にできるなら、そう言えばさらに問題になります。

このあたりのことは、「Ivbaのレコード上」からない加減の説明に終結しますが、例えばIvbaとセグメントの両方の「キース」でない、「超いじい」です。ここでのこの説明が「良い」とは言い難いですが、少なくともそれと対比しても「劣っていない」と思いますが、以上のような考え方や方針で問題ありません。

Excelが通った、これまでの20年以上に、「この部分について」自覚や自覚に無い追加的な説明でなかったけれど、今、何かなんか意識できないで、ここでもいじり「意図的に」「ダメさ」、「何だか」、「と、彼らの追加した部分に比べて全然「賢い」もの」

あと、とっても大事なことです。『キーワード(=すべての命令単語)』は……、つまり、すべての、変数、全ての関数(Exon固有、Office共通、API、その他、等々、すべて)、プロパティ、メソッド、ステートメント名(各種ステートメントを用いる単語)、各種組み込み定数、引数名、イベント名、自作のそれら、などは、どれもこれも、『全部をひっくるめて考えた場合』、
そもそも、大層な事と。

①文字系の一般データを返す動きしかないタイプのモノ、 ②何らかの動き(処理)をしつつ、同時に、文字系的一般データを返す動きもするタイプのモノ、
③オブジェクトを返す動きしかないタイプのモノ、 ④何らかの動き(処理)をしつつ、同時に、オブジェクトを返す動きもするタイプのモノ、

◎何にも通ずるに、何らかの働きだけはするタイプのモノ。
 の、この5つのタイプの「どれかに」あてはまります。(引用元既定値が「あるなし」、あるいは、その他の性質をも持てて)
 それぞれ「肩かたのどれかに」モノ「毛」や、髪「うす」……書物(書文の構造)などがあるもので、そのため、それだけで呼び名が異なるだけで、本質的な「働き」の部分が共通と、仮に、この5つのタイプが全く、このうち「どれかに」あてはまらずに……
 この表が、くわい、是非に同意です。ヘルプやオブジェクトブラウザやウッチュウペンなどでも組み立てられることを。

なお、「何らかの働き」とは、計算・条件判定計したり、比較したり、変換、ソート(並び替え)、結合や分離、転記、切り取り、外部データ接続、読み込み、メッセージ表示、開く/閉じる、コピー、削除、検索、置換、フィルタ(抽出、絞り込み)、グラフ作成する、...などのことを指します。

というわけで、上野の森の「キーワード」の部分（パープルの部分を除いた、グリーンとイエローの部分）に照ってですが、そのうち、『式じゃないもの（イエロー部分）』には、⑥だけがあてはまります。一方、『式を構成する要素（グリーン部分）』の方には、①～④があてはまります。

日本のVBAの市販書籍やサイトには、「式」の概念、オブジェクトモデルの詳細（特にコレクションオブジェクトの階層構造内の位置や詳細）、ウォッチウィンドウやオブジェクトブラウザの意義、「直上のスタートラインとしてのオブジェクトを返す自作関数の作成」、「SQLやその詳細」、のことなどを網羅的に1か所で教えてくれるモノは「1つもありません」（方向性としてすらでも）。

結果として、上記の表の1/2以下の項目の中の、さらに1/3程度のことしか教えてくれない感じです。

それでは、「挫折するべく挫折させられて、結局「わざと」核心を教えずカモっているのでは？」と疑われても、反論できないような気がします。